



## 広報ボランティアのページ

●担当ボランティア／日置雅夫・岩下茂子

縄文時代の社会はどうなっていたのだろう

### 地域社会をつくる縄文時代の集会所

2年前に青森県の三内丸山遺跡に行ってきました。縄文時代は1万3千年もの長きにわたり続き、近年になって特に話題になるようになりまし。三内丸山では5900年前から定住が始まり、1000年間も続きました。当時は、今より気温が高く、海水面も数メートル高かったようです。これを縄文の海進と呼ぶそうです。

生活のゴミ捨て場の貝塚を見てみると、魚や貝などの海の幸や獣肉、栗・クルミなど食べていたと想像されます。栗については、苗木を植えて栽培するなど比較的豊かな食生活だったようです。

家族が住む直径5～6m程の竪穴住居とは別に大型竪穴建物があり、集会所や共同作業場として使用していたと考えられます。

また、千葉市にも約5000年前に定住が始まった加曾利貝塚があります。ここでは、約2000年間続いた、巨大な貝塚があります。ここにも、長径約19mもある大型建物跡があります。まつりなどに使われたと考えられる特殊な遺物が多く出土しています。

現代では、昔からある集落には集会所としての公民館があります。そして、新たに多機能型の公民館やコミュニティセンターが作られ、市民活動の拠点として、地域社会をつくっています。(日置)



縄文時代の集会所：三内丸山遺跡  
大型竪穴建物（32m×9.8m、270㎡）

### おりもの感謝祭一宮七夕まつりにいきました!!

今年は猛暑日が連日続き、災害級とまで報道されておりますが、どのようにお過ごしですか？この記事がお手元に届く頃には涼しくなっているとよいのですが、まだまだ暑い日が続いているのでしょうか？読者の皆さまも体調には充分にお気をつけください。

今回は一宮市の誇る「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」取材させていただきました。私も息子が小さな時から幾度となく参加させていただいていました。まず最初に気づいた事は、まだまだ続くコロナ感染対策も考慮されたうえで、可能な限り盛大に行われたように感じました。

本町通りの吹き流し、いろんな場所での出店、休憩所、そして溢れんばかりの浴衣姿の方々を見ていると、なんだか懐かしさと嬉しさが込み上げてきました。ついに日常が戻ってきたかな？と。また、パレードでは参加者はマスクを取り外したうえで踊りを踊っており、辛かった日々を忘れさせるかのように、暑さも跳ね飛ばして楽しそうに行進しているのが印象的でした。

今回の七夕まつりに限らず全国的にもいろんな場所で、感染対策を維持しつつも、花火大会、夏祭り、地域伝統行事など、活発に開催されていることがよくニュースなどでも報道されるようになりました。長いトンネルを抜けるまで後少しのところまで来たようにも見受けられますが、同時にまだ新型コロナ感染拡大への注意喚起もされています。まだまだ新型コロナも油断せず忘れてはいけない状況ではありますが、戻りつつある日常を実感できる取材となりました。皆さまも感染対策は維持しつつも、再び戻りゆく活気ある日常を少しずつ楽しんでいただきたいと思います。(岩下)